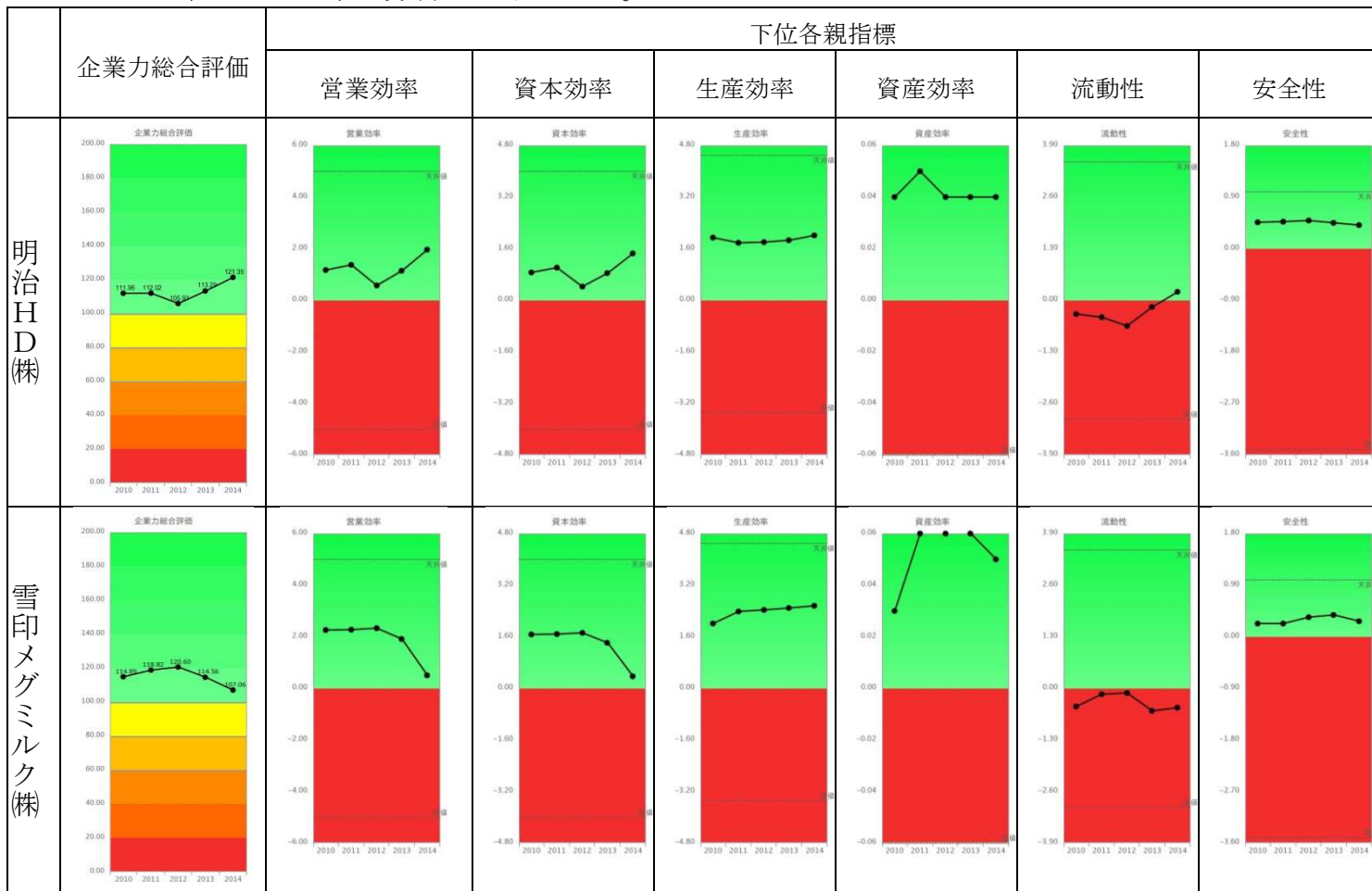


今回は、明治ホールディングス株式会社（以下、明治HD株）と雪印メグミルク株式会社の乳業大手2社を分析してみましょ。日本人なら誰でも子供の頃から、お馴染みの会社です。乳業という共通事業の他、明治HD株はお菓子類、雪印メグミルク株はバターなど乳製品類製造のイメージですが、実際はどうなっているのでしょうか。

2010～2014年までの5年を分析してみました。



企業力総合評価は、明治HD株は成長トレンド、雪印メグミルク株は悪化トレンドと明暗が分かれました。その原因は営業効率以下の下位指標を見れば分かります。

営業効率（儲かっているか指標）は、明治HD株は改善トレンドですが、雪印メグミルク株は、悪化トレンドです。資本効率（株主評価指標）も同様です。

生産効率（人の利用度）、資産効率（資産の利用度）は両社青信号領域です。

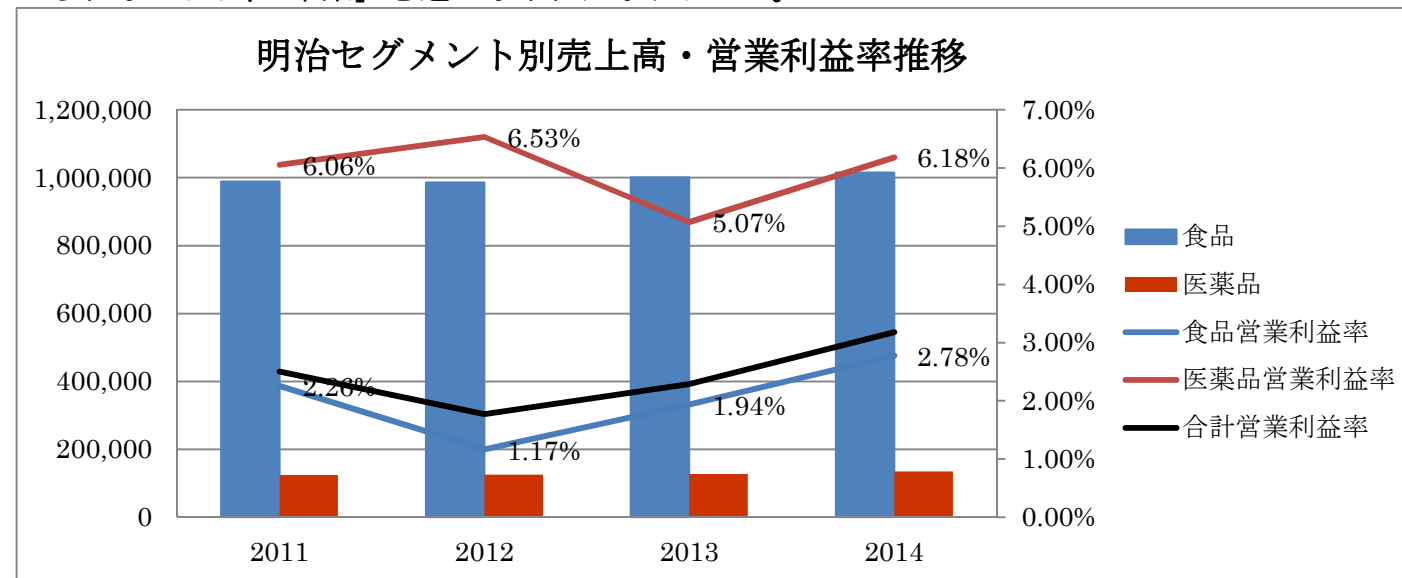
流動性（短期資金繰り指標）は、両社、赤・青ゼロ判別当たりですが、明治HD株が勝っています。

安全性（長期資金繰り指標）は両社青信号領域です。

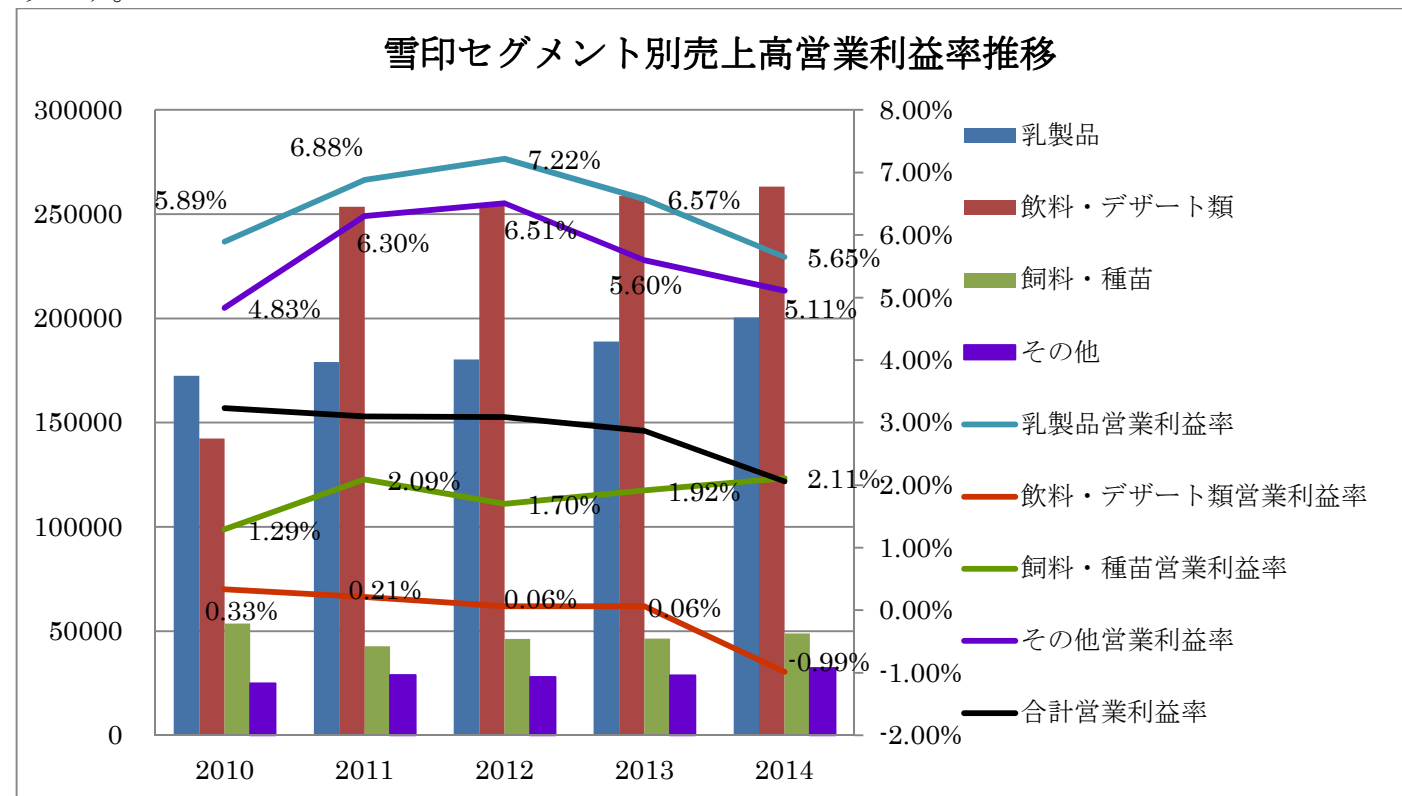
明治HD株は、営業効率が改善し、生産効率改善、流動性改善、安全性改善と善循環に入ってきていますが、雪印メグミルク株は、そうではありません。

営業効率を更に詳しく分析してみましょ。両社は上場企業ですから、製品群別（個々の商品別）・地域別・顧客別など、細かく利益率を把握し、何が、どこが一番儲かるかを明確にしています。貴方の会社も、どこが儲かっていて、今後どの売上を増やすべきか、どれほどの利益率を確保すべきか明確に答えることが出来ますか？もし、これができていないとすれば、貴方の会社は「未来」を決

められないまま、「未来」を迎えなければなりません。



明治HD株は、医薬品事業をしています。食品事業が1,015,265百万円に対し、医薬品事業が135,105百万円ですから、まだまだ相対的な規模は小さいのですが、営業利益率は医薬品事業が遥かに良いようです。



雪印メグミルク株は、売上高は、飲料・デザート類事業が伸びており、乳製品を抜きました。しかし、2013年までギリギリプラスであった営業利益率も2014年マイナス（△0.99%）に割り込みました。営業利益率の厳しい飲料・デザート類の売上が伸びているのですから全体として、営業効率が悪化する訳です。（その他：不動産賃貸事業および共同配送センター事業等）

まとめ

他社の事例研究は、情緒の入る隙がないため、自社分析する時に客観的評価を可能にします。貴方は2社経営について、どのようなご意見をお持ちになりましたか？

編集後記 決算書の中には「経営」が溶け込んでいます。チョコレートの中には「カカオ」が溶け込んでいます。

明治チョコレートを食べながら書いています。(＃^．^＃)

文責 JY

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-19 プロパレス安土町ビル7階D号 株式会社 SPLENDID21

tel 06-6264-4626 info@sp-21.com

過去のNEWS、セミナー情報は <http://sp-21.com>